

「さいふ」は *purse* か

—英語教師に問われる英語力—

山 田 政 美

0. 英語教師はどこまで英語力があればよいか、ずばり小笠原 (1994) は、いつもの論調ではあるが、この重要な問題を取り上げた。確かに、「授業を活性化させる名人芸」¹⁾とか「授業のための標準装備：その使い方と考え方」²⁾などを読むと、教える場での技術とか創意工夫 (アイディアの競い合い、とまでは言いたくはないが) が大きく取り上げられていて、したがって、そのようなことにのみ目を奪われることになりかねない英語教師を目指す学生や、あるいは大学院で研修に従事する現職教員を見かけることも少なくないので、本筋を見失うことがないように注意を強く喚起したい。

近年、中学校・高等学校の英語教師が新刊書評に登場することが多い (例えば、『現代英語教育』(研究社出版)の「新刊書評」欄など)。このこと自体は極めて有意義なことで、現場教師の研究意欲を高めるものである。だが、これを読むと、極めて浅薄なものも少なくない。あるいは、限られた情報しか持ち合わせないままの論評であることに気付く。

例えば、

「いかす」の意味の *groovy* について。これを記載していた新しい辞書もある、と著者は説明されているが、LDOCE にも書いてあるが、*old-fashioned* で1960年代によく使われていたようだ。最近では、*cool* のような語が流行っている。³⁾

があるが、LDOCE だけを引き合いに出すが、LDOCE とはどの版であるのか。LDOCE¹にはこのレーベルは無く、LDOCE²になって初めて“*old-fash*”のレーベルを入れた。ついでに、LDOCE の略語は好ましくない。LDCE¹、LDCE²などが、簡潔でよい。さらには、「1960年代によく使われていた」という記述は、LDCE²にも無いから⁴⁾、この書き方は誤解を招く。では、この *groovy* はどのような語であるのか。

元々は、ジャズ界で“*in the groove*”という言い方で使われていたところから生まれた形容詞。現在ではこの語を使うときには1960年代のヒッピーと結び付けて理解され、その当時のヒッピーの価値観や行動などを軽蔑的に取り上げて言う場合の語として使われることが多いのである (cf. Lighter (1994) など)。そういう遅れた人で、まだ平気で *groovy* という形容詞を使う人を *groover* と呼んでいる。したがって、単に年代を挙げて、その不都合さを評するのは意味がない。

さらに、*cool* が流行っているのは「最近」のことだけではない。もはや、俗語とは言えないほど長く使われてきている語である。

あるいは、アメリカ英語の *you guys* の用法に触れて、

イギリス英語では *guy* は「男、やつ」の意味であり、女性には用いない。「みなさん、みんな」と軽い呼びかけにも使う *You* の代わりに *You guys* を用いていると言えるだろう。*have* の代わりに *have got* を用いるようなものではないだろうか。⁵⁾

と言っているが、何のことか分からない。また、

米語では *garbage* と *trash* があり、イギリス英語では *rubbish* が一般であるという。2、3の辞書を調べてみると、*garbage* と *trash* には（主に米）と記してあるが、*rubbish* にはこのような記述はない。どの語がどの国でよく使われるかは、辞書も完全に把握していないこともあり、未開拓の分野ではなからうか。

と言うが、どの辞書を見たというのか。例えば、*LDCE*² は明確に英米のレーベルを付しているのではないか。また、「未開拓の分野」とは何を根拠にそうだとするの。いずれにしろ、この書評は、単なる内容紹介であって、しかも読みかなりの片寄りがあることが分かる。

例えば、次のような点も読み取って、論評に入れるべきである。

(1) *meter maid* を取り上げた項目の中で (pp. 75-76)、これを「交通取締官」などという日本語訳を与えて解説しているが、その訳語も誤解を与えるが、さらにはその業務内容の紹介もよく理解されていない節がある。あるいは、*Mace* を取り上げて「犯罪多発のアメリカでは、女性がレイプの危険からいかに身を守るかは重大問題である。そこで目をつけた業者が考案したのが *Mace* という武器である。」(p. 138) と言うが、そんなはずはない。現実には、その目的でも宣伝したり、使用されたりしてはいるが、本来は違う。さらには「中からこしょうなどが噴き出てきて撃退できる」(p. 138) というが、本来は違って、そのように生易しい武器ではないのである。目先のことに目を奪われて、正確な紹介をしていないのである。さらに言えば、この書がアメリカ英語とイギリス英語の差に注目する目的だと言うならば、*Mace* はアメリカでは甲の意味を持つのが、イギリスでは乙の意味を持つ、というような立場での取り上げ方が、商品名の場合にも必要なのである (cf. 山田 (1995) で言及した *Durex* のイギリス英語とオーストラリア英語の場合のように)。

(2) あるいは、「物乞いをする人」を表すアメリカ英語の *panhandler* を挙げている (pp. 138-39)。しかし、どのような意味でこの語を「物乞いをする人」を指すために使い始めたのか、その語源の説明がなければ興味はない。中途半端な、*Seattle Post-Intelligencer* 紙からの引用よりは、そのような語の背景的説明のほうがもっとよい。⁶⁾
 なお、この語は特に「路上や、公共の場」での物乞いをする者と考えるとよい (cf. Hayakawa (1968) など)。⁷⁾

さて、日常語として「さい布」を生徒にはどう教えてきたか、ということを考えてみたい。安藤・山田 (1995) は簡潔な解説を心がけたが、実際には以下に紹介するような方言研究をも参究した後の記述であった。いま、なぜこの表現を問題にするのかと言えば、例えば、

ハンドバッグ、がま口、さい布：Women usually keep money in a *purse*. 女性はたいていお金をハンドバッグに入れておく。

などの、大ざっぱな記述があるからである (上田ほか (1983), s.v. *purse* n. 1)。⁸⁾

1. 英和・和英辞典の記述

1. 1 英和辞典の記述

purse /pɜːs/ pɜːs/ (PURSE) 図 (purs-es /-ɪz/)

1 図(米) (女性用の) ハンドバッグ (handbag) (ショルダー(バッグ)でないもの): She put her coin bag in her purse. 彼女はハンドバッグに小銭入れを入れた / A boy snatched my purse as he rode by on his bicycle. 少年が自転車で乗って通りすがりに私のハンドバッグをひったかった。



purse 1

2 図 小銭入れ、がま口。

財布。[重要] (米) では coin purse というのが普通。札入れは wallet という (図 wallet 挿絵): A heavy purse makes a light heart. (ことわざ) 財布が重ければ心は軽くなる / He seems to have a fat [thin] purse. 彼は懐が暖かい[さみしい]らしい。

(coin) purse (小銭入れ)	財 布
wallet (札入れ)	

(『ライトハウス英和』)

「さいふ」は *purse* か

purse /pɜːrs/ [「袋」が原義]
① (英) *purse* /-ɪz/ ② (通例女性がハンドバッグに入れて携帯する) 財布、金入れ、がま口 ③ a heavy [fat, long] ~ 重い財布; 金持、富裕 / a light [lean, slender] ~ 軽い財布; 貧乏 / open one's ~ 金を出す[使う] / You cannot make a silk ~ out of a cow's [sow's] ear. (註) 雌牛[雄ブタ]の耳で絹の財布は作れない; 「ウリのつるにナスはならぬ。人の本性は変えられない」 / Little and often fills the ~. (註) 少しずつでも度重なれば財布はいっぱいになる。「ちりも覆れば山となる」 ④ *wallet* は男物の「札入れ」。(米) *billfold* も「札入れ」だが男女とも用いる。同じ意で (米) *pocketbook* もあるが、これは (英) では通例「手帳」*coin purse* は「小銭入れ」で男性も使用。
⑤ (米) (女性用の)ハンドバッグ(*handbag*) (特に若いものない軽便なもの)。

(『ジーニアス英和』)

purse /pɜːrs/ 図 1 (主に女性用の)小銭入れ、財布。(→ *wallet*).
2 【米】(女性用)ハンドバッグ。

(『新グローバル英和』)

1. 2 和英辞典の記述

さいふ、財布 図 1 (米) *a change purse*. (主に英) *a purse*; [札入れ] *a wallet*. (米) *a billfold*.

【例】(change) *purse* は主に女性が用いる小銭入れ。(米) では単なる *purse* は通例女性用ハンドバッグを意味するので注意。wallet は通例二つ折りで、主に男性用の札入れ。小銭と札の両用の財布は (米) では *wallet*、(英) では *purse* を用いる。

軽い(重い)財布 *a light [a heavy] purse*. (女比喩(的)に「貧乏[金持ち]」の意にもなる) 一財布のひもを締める[緩める] *tighten [loosen] one's purse strings*. 一財布のひもをにぎる *hold [control] the family purse strings*. 一財布をばたく *empty one's purse*; *spend one's last penny*. ▶ 財布を盗まれた *I had my wallet [purse] stolen*. (☆ X) *was stolen my wallet [purse]*. としないこと) (警察などで被害を訴える場合) *Someone took my wallet [purse]*. ▶ 財布のひもをしめなくてはならない (= 出費に気をつけなくてはならない) *We have to be careful with expenses*.

(『ニューセンチュリー一和英』)

2. *purse* とその類義語

DARE は、すでに “What do you keep money in when you carry it around with you?” という質問を出して、*billfold*, *change purse*, *coin purse*, *handbag*, *purse*, *pocketbook*, *wallet* などの語について検討をしている (ただし、現時点では Vol. I (1985) に収録されている *billfold* の調査結果が利用できるところで、Vol. IV に収録されるはずの *wallet* の調査結果が待たれる)。⁹⁾

2. 1 *purse*

類語の中ではもっとも古くからある語で、“small pouch or bag ... for carrying money on the person” の意味で 1100 年以前から用いられている (cf. *OED*²)。DAE はアメリカ英語としては 1700 年からの使用を確認している。

DARE の 569 名の使用回答者を見ると、北東部と沿岸大西洋各州では使用頻度がやや少ない。東部では *pocketbook* が *purse* と同じくらい使われている (395 名の使用回答者)。

2. 2 *pocketbook*

文字通りポケットに入れて持ち歩く小型手帳。*OED*² によると、1685 年までに、“book for notes, memoranda, etc., intended to be carried in the pocket; a notebook; also, a book-like case of leather or the like, having compartments for papers, bank-notes, bills, etc.” の意味用法を確認した。DAE は、アメリカ英語では 1816 年からこの最後の意味用法を確認した。

東部では、*purse* と同じくらいの使用回答者がいた (395 名) が、西に移るにしたがって少ない。

2. 3 *handbag*

かつては大型のもので、文字通り手に持って旅行に出るときに使うもの [*hand-baggage* は現在でも空港でのチェックインの際に空港係員が使う語である]。*OED*² では 1845 年、DAE では 1845 年の使用を確認している。ただ

し、旅行用カバン以外の物を指す例は1907年のものである。

119名の使用回答者は、全米に広がっているが、しかし Maryland だけでは異常に多い。回答者の88%が、60歳以上であった。

2.4 wallet

“bag for holding provisions, clothing, books, etc.” (OED²) の意味ではすでに1386年から使用されている。しかし、“smaller, flat container for paper money and small documents” の意味用法はアメリカ起源で、OED²には1845年、DAは1834年からの使用を確認した。

先ほどの DARE のフィールド調査の質問に対して現れた最も頻度の高い5語 (*purse, billfold, wallet, pocket-book, handbag*) の中で、*billfold* だけがアメリカでの造語で [Web³ によると、*billfolder* の短縮語] で、OEDS では1895年の初例がある。

3. billfold と wallet

billfold と *wallet* は、今日ではほとんどのアメリカ人には同義語となっているが、DARE の調査では1002人の調査対象者の内、*billfold* を使うと答えた者が557人、*wallet* を使うと答えた者が508人で、使用頻度数の高い2位と3位であった。この二つの品物共に、他の語が意味する物よりは、大きさが小さく、通例折りたたみができるものである。主要な用途は、お金を入れることであるが、これを入れることができるより大きな入れ物のアクセサリーであるだけの場合も稀にはある。

両語共に、全米で使用されて、DARE の調査対象者のどの年齢にも、教育の有無の差もなく、人種やコミュニティのタイプによつての差もない。

wallet は、北東部 (New England, New York, New Jersey, Pennsylvania) で最も普通に使われ、南部 (沿岸部を除く)、南中部ではさほど普通ではないが、ミシシッピ河の西部では一般的であり、カリフォルニアでは再び広く使用されている。

DARE の使用分布図を見ると、*billfold* が *wallet* と相補的に現れているが、北東部ではことに散在している点が注目できる。¹⁰⁾

4. billfolder, folder, fold, folding wallet

DARE は、8名が *billfolder* を使用する (3名は South Carolina; North Carolina, Kentucky, Missouri, Mississippi, New Jersey の各1名) という結果を得た。

省略形 (clipped form) では、*folder* が3名 (Louisiana, Tennessee, Washington)、*fold* が1名 (Rhode Island)、また *folding wallet* が1名 (Pennsylvania) あった。

5. LANE 調査と Bright 調査

LANE 調査では、“small pouch or similar container for coins and other money” の意味では *purse* が主要語として、また “larger receptacle used to contain paper money as well as other articles” の意味では *pocketbook, handbag, bag* が使用されていると報告しているが、Kurath によると、

“Several informants state that the purse is carried inside the pocket book or hand bag ... Purse may also be used as an equivalent of hand bag; but the want of a clear definition in many cases makes it impossible to separate the two meanings.” (map 368)

と述べていて、これは DARE も同様な問題にぶつかった。

「さいふ」は *purse* か

Bright 調査は *DARE* に比べると回答者の数ははるかに少ないが、しかし、同様な問題にぶつかった。42名は *purse* は小さいと回答したが、6名は大きいと回答した。決めかねるものが8名いた。11名は一般的な語だとしたが、6名は *handbag* と同義語であり、4名は古めかしい語だと答えた。結局、Bright は、California と Nevada の88% が *purse* を使い、48% が *handbag* を使い、わずか16% が *pocketbook* を使う、と言っている。Bright はまた、*bag* (24%)、*coin purse* (19%) の回答もあったと言っている (pp. 160-61)。

6. *coin purse*, *change purse*

DARE の調査では、*handbag* に次いで、*coin purse* と *change purse* が現れた。全米に点在するが、*coin purse* は Minnesota と Iowa に最もよく現れ、*change purse* は南中部に少しばかり集中する傾向が見られた。*Web³* にはこの両語が収録されていないが、*OEDS* には収録されている (*coin purse* は主にアメリカ英語であるとし、1908年、1967年の用例がある。*change purse* の初例は1911年)。

7. *change pocketbook*, *hand purse*, *handbook*, *pocket billfold*

DARE 調査では、標記の語が1例ずつ得られた。

8. Schneidmesser のまとめ

Luanne von Schneidmesser (*DARE*) の結論では以下のようなになる：

- 1) いずれも全米で使われてはいるが、*pocketbook* は東部 (北東部と大西洋沿岸部) でより多く使われ、*purse* はそれよりも西の地域で使われる。
- 2) *handbag* は、使用地域を特定できないが、Maryland では好まれて使われる語と言えよう。
- 3) *wallet* は、北東部と California で耳にすることが多い。
- 4) *billfold* は、北東部以外の地域で耳にする。
- 5) *coin purse* は、中西部の北部 (Upper Midwest) での使用頻度が高い。
- 6) *change purse* は、南中西部 (South Midland) でやや使用頻度が高い。

9. イギリスのカタログに現れる *purse/wallet*

9. 1 *purse*

クレジットカード、小切手 (bank notes)、運転免許証、定期券なども入るようになっていて、さらに *coin section* もあるものは *purse* として商品広告にある。女性用。

外見が「がま口」状のものもある。

clutch purse は、少し大きめのものについての呼び名になっている。

9. 2 *wallet*

wallet を見ると、紙幣、クレジットカード、運転免許証なども入るほか、'a zipped section for coins' もあることが分かる。男性用。

10. アメリカのカタログに現れる *purse/wallet*

10. 1 *wallet*

男性用 (men's wallet) では、商品名 Rolfs の物をよく見かける。商品説明を読むと、credit card slots, currency section(s), removable plastic window(s) などがあり、key slots がある物もある。*AHSD* の記述では、"for holding paper money, coins, cards, photographs, etc." とあり、「写真」が拳がっているのが面白い。

女性用 (women's wallet) には、“compartments for checkbook, calculator, credit cards”があり、*coin purse* が付いている。

two-fold wallet, three-fold wallet がある。

11. エピローグ

古い辞書ではあるが、*purse* の次の参考記事は捨てがたい：

英米では婦人は財布やがま口を持っているが、男はほとんど持たない。英米の男性はバラ銭をそのままポケットへ入れている。その方がチップを出すときにも便利である(手さぐりで必要な小銭を出して与えられる)し、たいていの買物は小切手ですませるので、現金を持ち歩く必要がないからである。また、アメリカでは、ふつう婦人のハンドバッグのことを *purse* と呼んでいる。(『MY WORDBOOK (基本英語百科辞典)』1964、s.v. *purse*)

[注]

本稿は、Luanne von Schneidemesser (1980), “*Purse and its synonyms.*” *American Speech*, Vol. 55, No 1, Spring 1980, pp. 74–76 に基づく。

- 1) 『現代英語教育』第31巻第8号, 1994年11月, pp. 12–14, 21。筆者は原田昌明(江戸川女子短期大学助教授)。
- 2) 『現代英語教育』第31巻第6号, 1994年9月, pp. 11–13。筆者は渡辺浩行(新潟県立国際情報高等学校教諭)。
さらには、同誌の「わたしの標準装備」 pp. 20–26。
- 3) 『現代英語教育』第31巻第10号, 1995年1月号, p. 58。中村保男『続・英和翻訳表現辞典』(研究社出版)の新刊書評。評者は杉田直男(鳥取県立岩美高等学校教諭)。
- 4) *LDEL* は、1960年代に流行った語だとしているから、あるいはこれを参照したのかもしれない。
- 5) 『現代英語教育』第31巻第10号, p. 59。大石五郎『アメリカ英語とイギリス英語』丸善ライブラリー(丸善)の新刊書評。評者は松田幸一(山梨県立都留高等学校教諭)。
- 6) もっとも、語源には2説ある：
 - i) a) ... *panhandler*, a term possibly suggested by the beggar's outstretched arm and hand. (Mish 1989, s.v. *tramp*).
 - b) apparently because beggars held out tin pans in requesting alms. (Chapman 1986, s.v. *panhandle*)
 - c) A *panhandler* ... American slang for a street-beggar, perhaps from carrying a pan or tin for the reception of any oddments he may be given. (Evans 1981, s.v. *panhandle*)
 - ii) *Panhandler* is said to derive from the Spanish *pan*, meaning both bread and money. (Hendrickson 1987, s.v. *panhandler*).

あるいは、その他の語源辞書を参照のこと。あるいは、一般の辞書の語源の記述を参照のこと。興味深いことに、学習英和辞典でも『ラーナーズ プログレッシブ英和』は「差し出した手がフライパンの柄に似ていることより」と、はっきりと書いている。
- 7) Metropolitan Transportation Authority (New York) は、“Panhandling in the Subway”というパンフレットを作成して、地下鉄の列車内や地下鉄周辺(プラットフォーム、階段、通路)での *panhandling* が禁止されている行為であることを訴え、この行為について一般の人の意見を求めている。

Many subway beggars are neither homeless nor needy. According to the Transit Police and investigative news reports, a lot of the come-ons are scams, and much of the money collected goes for alcohol

and drugs. Subway customers often give because they feel hassled and frightened.

We've been trying to stop this intimidation. In the past year, the police have arrested 900 of the most aggressive repeat panhandlers. But the police can't be everywhere at once. They need your help. The best way to help end panhandling on the subway is not to give.

The courts have held that begging anywhere in the subway —trains, stairs, corridors— is against the law. Make sure that it doesn't pay. *Don't give money to subway panhandlers.*

- 8) この事典を紹介して、「この辞典 [原文のまま] は中高の教師向きのもので、文化を含め多方面の情報が満載されている。(中略) この辞典 [原文のまま] はその性格上収録語彙は多くないが、現場の英語教師としては必ず備えたい辞書の1つである。」(早川 1990: 91) のようなものがあるが、この紹介執筆者は必ずしも信頼できるものではない。また、同事典には疑義のある記述も少なくない。
- 9) *American Speech* で、かつて *handbag*, *purse*, *pocketbook* の地域的分布について質問が寄せられた (Vol. 53, No. 3, p. 209)。
- 10) Kurath (1939-43) と、Bright (1971) の両者共に、*DARE* の調査結果と一致する。Kurath の調査では、'leather billfold' の意味で *wallet* を使う、と答えた者も数名いたという。Bright の調査では、76% が *wallet* を使い、30% が *billfold* を使っていた。

References

[1]

早川 勇 (1990), 『英語辞書へのプロムナード』三友社。

小笠原林樹 (1994), 「英語教師と英語力」『現代英語教育』第31巻第7号, 1994年10月, pp. 17-19。

山田政美 (1995), "Bounty is a pickup truck. —Not!" 『英語教育と英語研究』第12号。島根大学教育学部英語科教育研究室, 1995, pp. 23-55。

[2]

Bright, Elizabeth S. (1971), *A Word Geography of California and Nevada*. Berkeley: University of California Press.

Cassidy, Frederic C. (ed.) (1985), *Dictionary of American Regional English*. Vol. I. Cambridge, Mass. and London: The Belknap Press of Harvard University Press. [*DARE*]

Chapman, Robert L. (ed.) (1986), *New Dictionary of American Slang*. New York: Harper & Row.

Craigie, W.A. and J.R. Hulbert (1938-44), *A Dictionary of American English on Historical Principles*. 4 vols. Chicago: The University of Chicago Press. [*DAE*]

Evans, Ivor H. (ed.) (1981), *Brewer's Dictionary of Phrase and Fable*. Second revised ed. London: Cassell.

Hayakawa, S.I. and the Funk & Wagnalls Dictionary Staff (ed.) (1986), *Funk & Wagnalls Modern Guide to Synonyms*. New York: Funk & Wagnalls.

Hendrickson, Robert (1989), *The Facts On File Encyclopedia of Word and Phrase Origins*. New York: Facts On File.

Kurath, Hans (1939-43), *Linguistic Atlas of New England*. 3 vols. Providence, R.I.: Brown University. [*LANE*]

Lighter, J.E. (ed.) (1994), *Random House Historical Dictionary of American Slang*. Vol. I (A-G). New York: Random House.

Mathews, M.M. (1951), *A Dictionary of Americanisms on Historical Principles*. 2 vols. 1951; One-volume ed. 1956. Chicago: The University of Chicago Press. [*DA*]

Mish, Frederick C. (ed.) (1989), *Webster's Word Histories*. Springfield, Mass.: Merriam-Webster.

The Princeton Language Institute (ed.) (1994), *21st Century Dictionary of Slang*. New York: The Philip Lief Group.

[3]

『ジーニアス英和辞典』改訂版。大修館書店，1994。[『ジーニアス英和』]

『ライトハウス英和辞典』第2版。研究社，1990。[『ライトハウス英和』]

『ラーナーズ プロGRESSIVE英和辞典』小学館，1992。[ラーナーズ プロGRESSIVE英和』]

『新グローバル英和辞典』三省堂，1994。[『新グローバル英和』]

『ニューセンチュリー和英辞典』三省堂，1991。[『ニューセンチュリー和英』]

[4]

安藤貞雄・山田政美（編著）（1995），『研究社現代英米語用法辞典』研究社。

上田明子・北村宗彬・隈部直光・森住 衛・若林俊輔（編著）（1983），『英語基本語彙辞事典』中教出版。

福原麟太郎・岩崎民平（監修），富原芳彰（編）（1964），『MY WORDBOOK（基本英語百科辞典）』研究社辞書部。

[5]

Longman Dictionary of Contemporary English. Harlow and London: Longman, 1978. [LDCE¹]

Longman Dictionary of Contemporary English. New ed. Harlow, Essex: Longman. 1987. [LDCE²]

Longman Dictionary of English Language and Culture. Harlow, Essex: Longman. [LDELIC]

The Oxford English Dictionary. 20 vols. London: OUP. 1989. [OED²]

A Supplement to The Oxford English Dictionary. Vol. I. London: OUP. 1972. [OEDS]

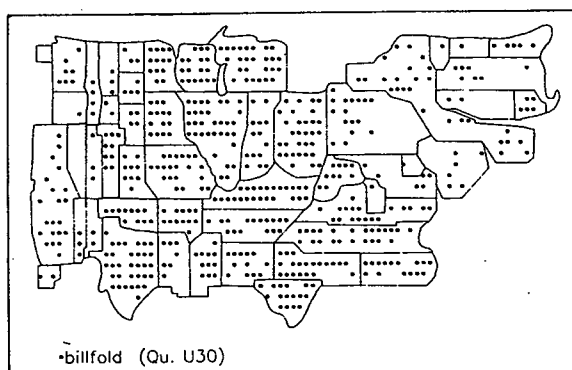
Webster's Third New International Dictionary of the English Language. Springfield, Mass.: G. & C. Merriam. 1961³. [Web³]

[補注] DARE が示す *billfold*, *billfolder* の記述は以下の通りである：

billfold n widespread, but least freq in NEast, Pacific See Map
Cf wallet

A pocketbook to carry folded paper money; a wallet.

1950 WELS (*What do you keep money in when you carry it around with you?*) 46 Infs, WI, Billfold. 1965-70 DARE (Qu. U30) 557 Infs, Billfold.



billfolder n [billfold + -er affix] chiefly Sth, S Midl esp among Black speakers
=billfold.

1909 Porter *Options* 35 NYC, When he drew out his bill-folder to pay the cabman you couldn't help seeing hundreds and thousands of dollars in it. 1965-70 DARE (Qu. U30, *What do you keep money in when you carry it around with you?*) Infs KY94, MS60, MO23, NC50, NJ22, SC26, 55, 63, Billfolder. [5 of 8 Infs Black]

(やまだ まさよし・学校長・島根大学教授・英語学)